

News Letter

第35号

2024年12月

発行：公益財団法人スペイン舞踊振興MARUWA財団 〒105-0014 東京都港区芝3-16-13 MARUWAビル 2階
TEL：03-5419-6513 FAX：03-5419-6514 URL：http://www.mwf.or.jp E-mail：info@mwf.or.jp

令和6年度 事業状況のご報告

皆様には平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当財団はフラメンコをはじめとするスペイン舞踊の普及と振興を目的とし、日本における舞踊活動に従事するアーティストを支援する活動に取り組んでまいりました。2024年も世界的な社会情勢や経済環境の変動が続く中、皆様のご協力のもと、意義深い活動を展開することができましたことを、ここに報告いたします。

来年3月には、スペインで活躍するマリア・モレーノ氏を講師としてお招きし、フラメンコワークショップ（名古屋 2025年3月7日～11日 / 東京 同年3月14日～18日）を開催いたします。本ワークショップは、フラメンコ愛好者の技術向上と芸術交流を目的としております。

また、第13回CAFフラメンコ・コンクールの開催が決定いたしました。来年9月に応募DVDの受付を開始し、一次予選のビデオ審査後、二次予選を同年12月7日（日）に東京港区の当財団スタジオにて、本選を2026年1月31日（土）に北先住シアター1010にて開催いたします。今回も多くの才能あるアーティストが参加し、熱い競演が繰り広げられることが期待されます。このコンクールは本場スペインでも認知され、第12回優勝者の鬼頭幸穂さんは、国際フラメンコセンターが主催するコンクールConcurso Internacional de Baile Flamenco per Jaleos Extremenos (<https://centrointernaciona>)の準決勝に招待されました。スペインで名高いフラメンコ舞踊家や専門家が審査に携わるこのコンクール。今後もCAFフラメンコ・コンクール出演者が多くの素晴らしい機会に恵まれることを願っています。

助成事業では、令和7年度に開催されるフラメンコやフラメンコ音楽公演・イベントに対する助成応募を、来年1月より受け付けます。応募期間は2025年1月10日（金）～2月6日（木）となっております。国内で実施される意欲的で芸術的価値の高い作品を助成対象としており、支援してまいります。皆様のご応募を心よりお待ちしております。



撮影者：Thaiscoy

マリア・モレーノ

海外派遣 研修生の報告書

海外研修生より、報告書が届きましたので、ご報告致します。

第11回CAFフラメンコ・コンクール優勝 伊藤 笑苗



撮影者：伊藤 美音

研修では、視野を広げることを目的とし、スペインの人や文化に触れること、それから舞台鑑賞に重点を置きました。

セビージャ到着後、最初の1か月弱はエステリリサダとエスクエラ・ボレラのクラスを受講しました。この2つはフラメンコと並ぶスペインの伝統舞踊であり、日本ではなかなか習う機会がありません。フラメンコとの関わりも深いので、習ってみたいと常々思っており、今回その願いが叶いました。カスターネットと体の連動、独特の様式美はフラメンコにも生きるはずで。

2月中旬から3月上旬にかけては、世界最大のフラメンコの祭典「ヘレスフェスティバル」に参加しました。2週間の開催期間のうち、最初の週は1日2クラス、次の週は1日3クラスを受講しました。期間中、毎日約3公演が上演されます。私は体力と時間が許す限り、毎日様々な公演鑑賞を楽しみました。各作品のコンセプト、多様な楽器の効果的な使い方、衣装や舞台装飾、照明、もちろん踊りについても、どれもこだわりが強くハイレベルでした。いつか自分が舞台を作成するとしたらどうするか、想像しながら多くのことを学ぶことができました。

クラスでは、世界中から集まったフラメンコ愛好家の多さに驚きました。スペイン発祥のフラメンコをやる身として、アジア人であることを私はコンプレックスに感じていました。しかし、日本・スペイン以外の人のフラメンコ愛好家と接するうちに、

世界的にみたらアジア人がフラメンコを踊ることに對しても案外抵抗がないかもしれないとの考えに至りました。重要なのは、良いか悪いか。多様性が認められ、世界中が簡単につながり合える良い時代に生まれたなあ実感しました。

続く4月には、セビージャの代表的なイベント、セマナ・サンタとフェリアを経験しました。セマナ・サンタでは、各協会に飾られたイエスマリアを觀たり、プロセシオン（行進）や音楽、香り、人々の雰囲気など非日常のセビージャを満喫しました。フェリアでは、友人のプライベートカセータに招かれ、親族や親しい友人たちで集うセビージャ人流のフェリアの楽しみ方を垣間見ることができました。

5月には同じく留学中だった同年代の日本人舞踊手4人でライブを行いました。それぞれの友人やフラメンコに興味がある人などが觀に来てくれ、セビージャに住んでいることを実感し、暖かい気持ちになりました。

6月には、カディスのペーニャが主催するコンクールに挑戦しました。予選から先には進めず、自分としても満足いく内容ではなかったのですが、現地のミュージシャンとコミュニケーションを取ったり、先生が個別で踊りの指導をしてくださったり、挑戦したからこそ学び多き経験を得られました。

夏の間は、猛暑となるセビージャに残りました。多くの人が県外へと避難しており、クラスもお休み。閑散とした姿のセビージャも珍しかったです。少しペースを落とし、復習をしつつ、友人が教えるピラティスのクラスに通ったりしながら、スローなひとときを過ごしました。

9月からは再びクラスが再開し、クラスに舞台鑑賞とあつという間に時が過ぎました。

9月の頭にはファルキートの公演を觀にマドリッドまで足を伸ばしました。街の雰囲気、さらには舞台を觀に来る觀客の雰囲気さえセビージャとは違ったことが印象的でした。

さらに9月末から10月にかけては、毎週3公演ずつフラメンコが上演されるイベントがあり、私は回数券を購入し、計9公演を觀ました。志風さんもいらしており、毎終演後に彼女の経験してきた様々なフラメンコ話を聞かせてもらいました。彼女の知り合いのスペイン人フラメンコ評論家たちの率直な意見を聞いたことも勉強になりました。

同時に、セビージャの有名なペーニャ、トーレス・マカレナへもほとんど毎週通い、フラメンコ好きの友人とディープなフラメンコ談義をかわしました。

もちろん上記の他に、継続してフラメンコのクラスも受講していました。今回は、特にバタ・デ・コーラのクラスが多かったです。他には、エル・オルココンのコンパスクラス、フンダシオン・クリスティーナ・ヘーレンで出会った先生が開講しているフラメンコでコミュニケーションを取るためのクラスへも継続して通いました。初めてバストンを使用した踊りのクラスも受けました。フラメンコ舞踊家としての表現の幅が広がったと思います。

さらに、今回の滞在中、各地のタブラオで活躍する元クラスメイトたちにも会えました。フラメンコ界のリアルな今の話を聞くことができ、モチベーションになりました。

10月末には、急遽私もセビージャのタブラオにて踊る機会に恵まれました。なんと1月から正式に契約を結びたいとの話もいただいたのですが、そのころには既に帰国の飛行機を予約してしまっていたので泣く泣くお断りしました。

合計10か月の滞在は長いようであつという間でした。前回留学時に比べ、円安が進んでおり、思うようにやりたいことが出来ず、もどかしさもあつたのですが、こうして振り返ってみるととても学びの多い、豊かな日々を送れたように感じます。

第11回 CAF フラメンコ・コンクール準優勝 久保田 晴菜

2023年9月から1か月間、スペイン・マドリッドに研修に行かせていただきました。マドリッドは、私が幼いころから母と一緒に訪れていた場所であり、また2013年に初めて1年間の長期留学を行った際に選んだ都市でもあります。今回は、ベドロ・コルドバ、ダビ・パニアグア、ホセ・マジヤといった先生方のもとで、徹底的にフラメンコの基礎を見直しました。表現することの根底には、舞踊技術に裏付けされた踊りがあること、そのためには日々の訓練の積み重ねが必要であることを改めて叩き込まれた気がしています。また、フラメンコの形式・振付の成り立ちについても、たくさんのお話をいただきました。見よう見まねで、彼らの踊りの表面的な部分を小手先の表現でごまかしてしまいがちですが、その根底にある生活に根差した身振り・しぐさ、印象に残る瞬間を作り出すための流れや身体のバランスなど、丁寧に説明してくださつたのも印象的でした。1つ1つの振りや動きに意味があること、一流のアーティストでも動きを分解して流れを構成していると知ったことは、私にとってちょっとした衝撃でした。また今回は、クラシコ・エスパニョールの基礎を習得したいというものマドリッドを選んだ理由の1つでした。クラシコのエッセンスを、フラメンコの踊りに取り入れることができればと思って受講したロサ・サラゴサ先生のクラスでしたが、踊りとしての基礎がたくさん詰め込まれており、特に今回はフラメンコのクラスと並行して受講したことで、お互いに応用させながら高めあい、相乗効果のようなものを感じながら受講いたしました。パリージョを徹底的に練習したのも初めてで、稽古はともて地味で地道なものではありませんが、できなかったことができるようになったり、速いスピードにチャレンジできたりするなど、稽古の成果がはっきりと形になるので、やりがいを感じて取り組むことができました。今回のスペイン滞在では、「基礎力」の大切さを改めて考えさせられる研修となりました。学んだことをさらに深め、自分の踊りに反映できるよう、稽古を積み重ねてまいりたいと思います。



撮影者：本人 アモール・デ・ディオスにて

ワークショップ参加者の報告書

講師アデラ・カンパージョのクルーシージョの参加者より報告書を頂きましたので、ご報告致します。

「アデラの独特の指導法が私の感性をより良いものに刺激する」

溝畑 直子

アデラと初めての出会ったのは、2016年のビエナル時期のクラスでした。アデラの指導は、足音をメロディのように口ずさんで覚えさせることや、踊りのクラスの中であってもパロのパルマにおけるリズム変化までも教えてくれます。さらにコンパスの中に足音がどのように当てはまっているかなどについて詳細に指導しつつ、次の段階として身体の使い方や表現の仕方について教えてくれます。アデラはベーシックな踊りに加えて、彼女独特のスタイルを教えてくれます。それが、踊り手たちにとって選択肢を増やすことに繋がり、感性を活かしつつ踊りに自分らしさを加えることができるのです。その為、アデラの振り付けが難しいと感じたとしても、最終的にはそれぞれの個性を活かした踊りをマスターできてしまうことに、彼女の指導法の素晴らしさを痛感するのです。特に私にとって、アデラの指導が自然と身体に馴染むのは、クラシック音楽を専門に勉強してきたことが影響しているのかも知れません。フラメンコとクラシック音楽には、何らかの共通点があるとは思いますが、彼女の指導法は、私が学んだクラシック音楽の指導法と同様であり、芸術という概念において感性を磨くことの重要性を共に感じるができるからだと思います。

私はアデラのレッスンを毎年受講し、コロナ禍から始まったオンラインレッスンにも3年間、欠かさず受講しています。昨年末、来日したアデラと東京で出会う事ができ、対面レッスンを受講できました。それもひとえにMARUWA財団の素晴らしい内容のクルーシージョを開催して下さいました。この場をお借りして感謝申し上げます。アデラに出会って、振付だけではなく、フラメンコにおける大切な理論も並行して教えて貰うことができ、その知識と彼女から湧き出るアイデア、毎回違うインスピレーションの動きや表現を目の前で見ることが私の踊りにもよい影響を与えて貰っています。彼女が持っているものを全てを惜しみなく注いでくれることに感謝しています。



撮影者：財団スタッフ

令和5年度 助成作品報告書

令和5年度助成作品の以下の3作品より公演の感想が届きましたので、ご報告いたします。

「シマ唄とフラメンコ」

2023年8月4日 アルハムブラ、2023年8月5日 北九州 BRICK HALL

2024年2月18日 かがしま県民交流センター中ホール

徳田 志帆

この度は令和5年度スペイン舞踊、音楽に関する創作活動への助成の対象者に選んで頂き、ありがとうございます。「シマ唄とフラメンコ」は鹿児島から遠く離れた文化圏の伝統芸能「フラメンコ」を鹿児島県奄美大島発祥の民謡「シマ唄」を通してより身近に感じる機会として、2018年より鹿児島にて取り組んでいるプロジェクトです。5回目の開催となる今回は昨年夏に東京・北九州（プロジェクト開始以降初となる鹿児島県外での公演）、今年の2月に鹿児島にて、計3回の公演を計画・実施しました。今回の公演では大島紬を使ったフラメンコ衣装も製作しました。2つの伝統芸能を通して、舞踊と音楽・歌（言葉）で情感溢れる「物語」を紡ぐステージを目指し中で、衣装にも細部までこだわりました。東京公演の後には奄美新聞にて今回の公演の背景やアーティストの言葉などが紹介されました（2023/9/2付）。どの会場でも最後は会場が一つになってあちこちで踊り出す情景がみられ、とても嬉しかったです。各地でご来場頂いたお客様から嬉しいご感想も多数頂きました。「唄唄とフラメンコのコンパスが不思議と良く合っていて言葉には言えない高揚感がありました。」（40代男性）「フラメンコの情熱



撮影者：オバラマサフミ

と島唄の哀愁が見事な融合を遂げてとても素晴らしかった。」(40代女性)「全ての回に来ましたが、シマ唄とフラメンコの融合が回を重ねる度に良くなっていて、今回は今までで一番見事でした。」(50代女性)。これらの言葉を励みに、今後も研鑽を積み、さらなる発展を目指していきたいと思います。

「カンタオール石塚隆充 スペイン語歌曲を歌う」

2023年11月8日 丸の内コットンクラブ

石塚 隆充

カンタオール(フラメンコ歌手)として活動を始めて30年。純粋に伝統的なフラメンコへのリスペクトに根ざした探求に加えて、フラメンコの周辺にある音楽であるジャズやラテンといった分野の音楽家や音楽ファンたちに、フラメンコを軸とするスペイン音楽を普及することに努めてきました。近年、自分自身の歌のルーツである「声楽」に原点回帰してみたくなり、ただし、その歌唱法はベルカント的なものではなく、あくまでもカンタオールとしてのスタイルを貫きながら、クラシック寄りのレパートリー(詩人フェデリコ・ガルシア・ロルカに所縁の楽曲、南米アルゼンチンに所縁のタンゴ、クラシック、フォルクローレの楽曲、そして、スペインを代表する作曲家であるホアキン・ロドリゴ、マヌエル・デ・ファリャ等の



撮影者：瀬戸 雅美

楽曲)を歌うという試みです。パンデミックによる活動自粛期間中には、自身のカルテットでの録音制作に打ち込み、実験的なコンサートも重ねてきました。そして長かったパンデミックが明けた2023年、ちょうど自身の50歳という節目の年に、長年の音楽的盟友やフラメンコ界の名だたる舞踊手をゲスト共演者に迎えて、スペインとスペイン語圏中南米の歌曲を歌うという本企画を実現することができました。敢えて、フラメンコ的な会場ではなく、日本最高峰の名門ジャズクラブ「ブルーノート東京」の系列店である、一流ショー・レストラン「コットンクラブ」にて開催、満席完売となったことで、従来のフラメンコファンに加えて、新たな観客層を開拓できたという実感もあります。共演してくれた素晴らしいアーティストたち(大儀見元、コモブチキイチロウ、石塚まみ、沖仁、早川純、パブロ・セルバンテスの各氏)、この企画を共に構想・実現してくれたプロデューサー/マネジメントの瀬戸雅美、そして、自費のみでは開催の困難な規模の公演に大きな助成をして下さった公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA 財団 および 選考委員の先生方に、心より感謝を申し上げます。これからも一層、フラメンコ、スペイン音楽および舞踊の普及と認知の向上に努めてまいります。

「棘の多い薔薇たち～Rosas Espinosas vol.8 “A flamencamiento～フラメンコは深化する”」

2024年2月11日 新宿ガル口

本田 恵美

コロナ禍で以前と全く変わってしまったフラメンコ業界の状況。そして舞台活動を再開するも情勢不安は続き、その都度舞台人として揺れる気持ち、、、そんなここ3,4年の記憶を記録として、いっその事公演に落とし込んでしまおうと企画したのが、今回の「棘の多い薔薇たち～Rosas Espinosas vol.8 “A flamencamiento～フラメンコは深化する”」でした。

この「棘の多い薔薇たち」シリーズ公演はその都度全く違うテーマを設け、約1年半ごとに初演と再演を繰り返し今回が8作目。普段は各々の活動がありつつプロ舞踊手集団としての創作活動は13年目に突入いたしました。

第1作では30代若手グループと称していた私たちですが、干支が一周し、中堅として新作に臨むタイミングでマルワ財団様からの助成を受ける事ができ、まさに光が差した思いでした。各々のフラメンコの深化、ミュージシャンとの表現の可能性の深化、そしてそれらが終結したひとつの作品としての深化を目指し“A flamencamiento～フラメンコは深化する”とサブタイトルを付けました。

お客様には肩肘張らずお楽しみいただけるよう、各踊り手はストーリーテラーとして、その展開に合わせて往年の名曲やアルゼンチンタンゴのメロディも採用する一方、正統派フラメンコの表現にもこだわりました。ミュージシャンもフラメンコの表現の幅を拡げるべく創意工夫を重ね、楽しみながら舞台作り尽力して下さいました。おかげさまで演者一人ひとりの想いがひとつの公演としての大きなエネルギーに結実した公演となりました。誠にありがとうございました。



撮影者：近藤 佳奈

令和6年度 助成作品決定

応募者・作品名	決定助成金額	公演予定日
中田佳代子 中田佳代子フラメンコ舞踊公演 En silencio - 静寂なる祈り -	120 万円	2024 年 12 月 15 日 於：盛岡劇場メインホール 2024 年 12 月 18 日 於：心齋橋 PARCOSPAC14 2024 年 12 月 19 日 於：なかの ZERO 小ホール
鬼頭幸穂 Celúla PARADERO ～古びた靴の導き～	80 万円	2024 年 12 月 7 日 於：Mi patio (名古屋市)
中里真央 中里真央フラメンコリサイタル Vol.1 HACIA ADELANTE アシアダランテ - 私の中の私 -	50 万円	2024 年 9 月 20 日 於：新宿ガルロチ
林田 紗綾 Estrella vol. II (エストレージャボリューム 2)	50 万円	2024 年 8 月 4 日 於：熊本市男女参画センターはあもにい 多目的ホール
東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会 「2024 年度 東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会 新歓公演」	30 万円	2024 年 4 月 12 日 於：東京外国語大学 プロメテウスホール
東京大学フラメンコ舞踏団 「東大フラメンコ令和6年度五月祭公演」	10 万円	2024 年 5 月 18 日 於：東京大学本郷キャンパス

令和6年度助成作品は上記6作品に決定いたしました。うち以下の3作品より公演の感想が届きましたので、ご報告いたします。

「2024 年 東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会 新歓公演」

2024 年 4 月 12 日 東京外国語大学 府中キャンパス プロメテウスホール 東京外国語大学スペイン舞踊部・カンテ研究会

毎年恒例となりました春の公演を、今年も無事に開催できましたことを、ここにご報告させていただきます。ご来場いただいた皆様、ご支援ご協力いただきました皆様に、部員一同心より感謝申し上げます。

本公演では、踊りやカンテ・ギターの発表を観ていただくだけでなく、フラメンコや曲についての紹介を充実させる、フラメンコのリズムをお客様にも体験していただくなど、フラメンコをより深く知っていただけるプログラムを目指しました。運営面では、初の学内ホールでの開催、舞台の設営から照明の操作まで部員だけで行うなど、前例のない開催形態であり、準備から公演当日まで試行錯誤の日々でした。この経験を通して、舞台芸術への理解を深めることができただけでなく、今まで私たちの公演がどれほど多くのサポートを受けて成り立っていたかということに改めて気づくことができました。そして何より、この公演に向けて仲間ともに汗を流したこと、大きな舞台で大勢のお客様を前にフラメンコを披露できたことは、部員一人一人にとって何事にも変え難い大切な思い出となりました。

今後も私たちの活動を支えてくださる方々への感謝を忘れず、フラメンコの魅力を多くの方々に伝えるよう、練習に励んでまいります。最後になりますが、今回の新歓公演を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました貴財団にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。



撮影者：藤原 優里

「東大フラメンコ令和6年度五月祭公演」

2024 年 5 月 18 日 東京大学本郷キャンパス

東京大学フラメンコ舞踏団

昨年度入部した新入生が主体となって行う初の五月祭で、新しい風が吹いたフレッシュな公演になったと思います。踊りの新曲に挑戦したことに加え、本公演で初披露のカンテもたくさんありました。カンテに初めて挑戦する部員も多く、スペイン語で歌唱する難しさを痛感しかなり苦戦しましたが、ギタリストのフォローもあって、本番では伸び伸びと歌えたと思います。踊りやパルマ、表情の面では前回の公演よりも安定感が増し、観客を楽しませることに注力できました。次回の公演では、MCをもっと充実したものにさせたり、使える小道具を増やしたりして、より満足度の高いステージを作り上げたいです。



撮影者：林 亜矢子

「Estrella vol.II」

2024年8月3日、4日 熊本市男女参画センターはあもにい

林田 紗綾

この度、Estrella vol. IIの昼夜2回公演を無事終了することが出来ました。MARUWA 財団様のご協力のもと、また本公演に携わって下さった皆さまのご協力のおかげと心より感謝いたしております。この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。コロナ禍で日常生活においても様々な制限があった時期、全力で何かに取り組む素晴らしさを伝えたいという思いから若手育成に力を注いでまいりました。この活動に賛同して下さったバイレのSIROCOさんによる集中レッスンを通して、日を追うごとに一人ひとりが自分に向き合いながら練習に取り組む姿勢が見られるようになり、同時にフラメンコをより好きになっている様子がとても印象的でした。群舞での活動を重ね、初めてソロで舞台上に臨んだ高校生、レベルアップした振付にチャレンジした小学生グループなど、それぞれが舞台に向けての取り組みにより大きな成長を見せてくれました。「思い通りの出来ではなかったが、自分を見つめ直してまたチャレンジしたい」と話してくれたことは、私達にとっても今後の活動に繋がる大きな後押しとなりました。またカンテ有田圭輔さん、水落麻理さん、ギター徳永健太郎さん、バイレSIROCOさんによるプロの舞台では、その魅力を存分に伝えて下さりました。このような機会を実現できたことに心から感謝いたしております。この度は誠にありがとうございました。



撮影者：間 文男

第13回CAFフラメンコ・コンクール開催日決定

【一次予選】 DVDによるビデオ審査

応募受付期間：2025年9月1日（月）～18日（木）【17時必着】

応募用紙は財団HPにて同年8月より配布開始

【二次予選】 2025年12月7日（日）東京港区 MARUWA 財団スタジオ

【本選】 2026年1月31日（土）北千住 Theatre1010



詳細は随時HPをご確認ください。

令和7年度 助成事業 募集案内

■助成金

〈プロ枠〉総額 300万円 〈学生枠〉総額 50万円

■助成対象

2025年4月1日～2026年3月31日までに終了予定のフラメンコやフラメンコ音楽の普及、向上につながるような個人或いは団体が主催する国内公演、イベント企画(プロ枠)、学校の部活やサークルなど学生が運営する国内公演、イベント企画(学生枠)で、他機関からの助成を受けていないもの。過去に当財団の助成を受けた場合でもご応募いただけます。

■応募方法

当財団ホームページの助成事業のお問い合わせフォーム(<https://mwf.or.jp/contact/>)より「助成応募用紙」をお申し込みください。応募用紙に活動の企画、予算、過去の芸術活動等を要約してご記入の上、台本或いはプログラム構成、過去の公演ビデオ又はDVD(10分間)と共にご郵送ください。

■応募受付期間

2025年1月10日(金)～2月6日(木)【17時必着】

■選考結果

意欲的で優れた公演、イベントの企画に対して、財団の選考委員による厳正なる審査結果を2025年3月31日(月)までに各団体宛に通知いたします。尚、助成金支給は公演終了後1か月以内の報告書、写真、印刷物等の提出により実施されます。

■お問い合わせ先

公益財団法人スペイン舞踊振興 MARUWA財団
〒105-0014 東京都港区芝3-16-13

MARUWAビル2階

Tel.03-5419-6513

Fax.03-5419-6514

E-mail info@mwf.or.jp

URL <http://www.mwf.or.jp/>